



卓話



卓話

11月ロータリー財団月間によせて

地区ロータリー財団委員会委員

清水 英世氏

ロータリアンの皆様のご支援により昨年度（2004-2005）におきましては、年次寄付について皆様の作成された目標に対しては100%達成、また3年間続きましたポリオ撲滅キャンペーン特別寄付も約束どおりの結果を出すことができました。



ここに改めてお礼を申し上げる次第です。

さて、本年度（2005-2006）地区ロータリー財団委員会では、財団セミナーでも申し上げましたが3つの委員会目標を立てさせていただきました。

それは、下記の通りです。

1. ロータリー財団の基本的理解の推進
2. 地区補助金のPRと活用
3. 奨学生選考基準の明確化

改めて、ご説明させていただきますと「ロータリー財団の基本的理解の推進」は、いまさら申し上げるまでもなく、ロータリー財団の目的、活動内容、結果、会計等を皆様に広くご理解頂くことです。ご理解頂かなければご寄付をいただくこともできません。今までもこれらの活動は積極的に行われてきましたが、内容が高度でかならずしも

ロータリアン全員の広い理解には至らなかった面もあります。本年度は全ロータリアンに「ロータリー財団の基本」の理解をお願いすることを第一の目標にします。

第二は「地区補助金のPRと活用」です。皆様の寄付が、全部皆様の活動に関係のない活動に全て利用されているとすれば、財団活動は身近なものにはなりません。ロータリー財団では、年次寄付の1割を限度に地区補助金として寄付の3年後に利用でき、これは皆様の身の回りの奉仕活動に役立てることが可能です。額は必ずしも多くなく使用目的に制限もありますが、皆様には是非この補助金をご活用願いたいと存じます。

最後は「奨学生選考基準の明確化」です。ロータリー財団では「国際親善奨学生」として、毎年優秀な学生、社会人を7、8名海外に派遣しています。これらの派遣は皆様の寄付の相当部分が利用されています。

皆様の浄財の相当部分を用いているプログラムである以上、より優秀で、国際親善の理念に合致した奨学生を選考し、十分な成果を上げ、またそれらがロータリーの発展へ結果的につながらなくてはなりません。

そのためには、クラブ、分区、地区という組織が共通の認識をもって奨学生の募集、選考を行う必要があります。完全に明確に規定することは不可能ですが、出来る限り共通の認識を持ちたいと思います。

以上が本年度の地区委員会の目標ですが、11月の財団月間に向けて委員会として各クラブのサポートに当たりたいと存じますので、財団月間を通じてロータリー財団のさらなる理解の向上を皆様をお願いする次第です。